

Kimono Making 和裁

日本の伝統衣装を仕立てる多彩な美を引き出す表現者

日本の伝統衣装の和服を仕立てる競技。9時間という競技時間内に女子用あわせ長着を制作します。和服は、茶道や華道、踊りなど、日本の伝統文化に不可欠な衣装です。現代でも、日本だけでなく世界中で多くの人に親しまれています。最近では涼を呼ぶ夏の浴衣も若い人に人気です。布地の材質や染色、様々な風合いや色、柄が作られ、普段着から訪問着、礼装着まで種類も多様。それらを仕立てる和裁は、直線的な裁断・縫製ながら多彩な美が表現され、技能者の腕の見せどころが満載の競技です。

競技について 競技時間：2日／9時間

競技は、女子用あわせ長着を縫製し、その技を競います。採点項目は、仕様誤り、できばえ、作業態度の3つ。支給される同一の生地を使用し、一部縫製を自宅で行い、会場で仕上げまでを行います。左そとと表身ごろ、裏身ごろのおくみ付けから仕上がりまで、細かい仕立て寸法にしたがって、素早く作業を進めていきます。

競技職種と生活との関わり

成人式や結婚式など、特別な日には欠かせない服であり続けている和服。日本古来の民族衣装である和服は、「kimono」が国際的に通用する言葉となっているほど、ひとつのファッションとして世界に広く認知されています。また、近年は夏のイベントで浴衣を気軽に着る若い人も多く見られます。日常のなかに息づく日本文化として、「和裁」の技能は非常に重要です。世界に誇れる和服の文化が受け継がれていくために、この技能者は大切な役割を担っています。

前回大会金メダリストからメッセージ！

自分のできることをやり切って、悔いのないよう頑張ってください！



長谷川 彩華さん
東亜和裁



反物



針



コテ



2022年大会
競技課題

微妙なつり合いが難しい、厚みの違う2種類の生地をピッタリと合わせられるか

競技のポイントは、表地と裏地を合わせる場所です。厚さや伸びの違う2種類の生地を微妙なつり合いで合わせなければならず、各選手の技能差が最も出る部分です。全体の縫い目がまっすぐなこと、コテ光り、焼けこげ、しみ、入針等がないかどうかポイントです。このような和裁の緻密で高度な技術は、日本古来の文化と伝統から生まれた「きもの」とともに、これからの未来に脈々と受け継がれていくことでしょう。

鈴木 勲吾主査

一般社団法人全国和裁着装団体連合会

